

当院での閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療の検討

那覇市立病院 循環器内科

比嘉南夫, 眞志取多美, 間仁田守, 旭 朝弘, 田端一彦

要 旨

【目的】近年, 閉塞性動脈硬化症 (arteriosclerosis obliterans : ASO) に対する血行再建として, 血管内治療 (endovascular therapy : EVT) が増加している. 当院でも EVT を積極的に行うようになってきており, 症例数が増えたことから, これまでの症例について検討してみた.

【対象】2008年11月から2012年8月までの3年10ヵ月の間に血管造影検査でASOと診断され, EVTによる血行再建が必要と判断された53例を対象とした. 最初にバイパス術を選択した患者は除外した.

【結果】平均年齢は69歳, 男性が37例(70%), 女性が16例(30%)であった. 症状による分類では, 間欠性跛行が35例(66%), 潰瘍・壊疽が18例(34%)であった. 病変部位では, 腸骨動脈が13例(24%), 総大腿動脈が1例(2%), 浅大腿動脈が28例(53%), 膝窩動脈が2例(4%), 膝下動脈が9例(17%)であり, 浅大腿動脈が半数以上であった. 右下肢が27例, 左下肢が26例と左右差はなかった. 狭窄病変が22例(42%), 閉塞病変が31例(58%)と閉塞病変が多かった. 治療方法は, バルーン治療が18例(40%), ステント治療が27例(60%)であった. 初期成績は, 成功が43例(81%), 不成功が10例(19%)であった. 不成功例はすべて閉塞病変であった.

【結語】今回の結果から, EVTのよい適応と, 治療適応に問題がある症例が明らかとなった. 今後もEVTを発展させていくため, 更なる詳細な検討が必要と考えられた.

Key words: 閉塞性動脈硬化症, 血管内治療, 初期成績

高齢者橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折の保存療法

Conservative treatment of distal ulna fractures associated with fracture of the distal radius in elderly people.

那覇市立病院 整形外科

儀間朝太, 岳原吾一, 大城互, 外間浩

要 旨

高齢者の橈骨遠位端骨折に合併した尺骨遠位端骨折に対する治療方針について一定の見解はない。橈骨に対して掌側ロックプレート固定を行い、尺骨に対しては保存療法を選択した高齢者7例（平均年齢71歳）に対し、術後の画像評価および臨床評価について検討した。全例骨癒合は得られ、Ulnar Variance（以下UV）は平均0.9 mmに保たれ、遠位橈尺関節 distal radioulnar joint（以下DRUJ）の不適合はなく、Mayo wrist score¹⁾にて7例中4例がExcellentであった。

高齢者の場合、橈骨遠位端骨折をロックプレートで固定すれば、合併した尺骨遠位端骨折は保存療法でも満足できる結果が得られると考えられた。

Key words: 尺骨遠位端骨折, 保存療法, 高齢女性

大腸生検で診断した糞線虫自家感染者 16 例の検討

那覇市立病院 病理科¹⁾ 豊見城中央病院 病理診断科²⁾ 同消化器内科³⁾ 光クリニック⁴⁾
新垣京子¹⁾²⁾, 峯松秀樹²⁾, 真喜志知子²⁾, 玻座間博明³⁾, 金城光世⁴⁾

要 旨

2004年1月から2009年6月までの6年間に亘り、豊見城中央病院の大腸内視鏡下生検病理標本で糞線虫の虫体を確認できた症例は16例であった。全て、無症状ないし軽症状の自家感染者であり、重症感染者及び播種性感染者は含まれていない。

右半結腸から採取された検体が最多で、病理組織像は、粘膜固有層内に小型の好酸球性肉芽腫が形成され、その中心に微小な幼虫の横切虫体が認められた。内視鏡所見は、淡黄白色隆起性病変や発赤びらん及びその混合型であった。自家感染者において、大腸内視鏡検査は有用であり、生検標本による糞線虫症の診断は比較的高い確率で可能であると考えられる。更に、内視鏡的に右半結腸に主座があることから、フィラリア型(F型)幼虫は、回腸腔を通過し結腸腔に到達した時点で、大腸粘膜内へ侵入を開始するであろうと推察した。

Key words: 糞線虫感染症, 自家感染症, 大腸粘膜生検

体圧分散式マットレスレンタル制度導入前後の 院内褥瘡発生率と褥瘡実態調査

那覇市立病院 看護部
吉村麻由子, 本永直美, 玉城邦子

要 旨

体圧分散式マットレスレンタル制度を導入。レンタル導入前後の院内褥瘡発生率と褥瘡実態調査から、レンタル導入の評価と今後の課題を検討した。レンタル導入前後の褥瘡有病率に有意差なし。院内褥瘡発生率は導入前 1.28%、導入後 0.97%、 $p=0.018$ と有意に低下。発生部位は仙骨部の占める割合が減少、尾骨・踵骨部が増加。部署別では呼吸器消化器内科病棟と ICU で発生数減少がみられなかった。レンタル導入後の褥瘡発生は 118 名 142 例。低栄養、湿潤、不適切なマットレス選択、身体症状による体位制限、頭側挙上や座位時のずれ等が発生要因としてあげられた。

体圧分散式マットレスの充実により院内褥瘡発生率は低下したが、マットレス選択が不適切な例も多くレンタル制度が十分生かされていない。ずれによる褥瘡、踵骨部などマットレス使用だけでは回避できない褥瘡を予防するため、部署の特徴もふまえたポジショニング研修など教育を充実させる必要がある。低栄養、身体症状による体位制限に対し、栄養サポートチームや緩和ケアチームとの連携体制の整備も今後の課題である。

Key words: 褥瘡予防, 褥瘡発生率, 体圧分散式マットレス

たこつぼ心筋症を合併した上腸間膜動脈塞栓症の 1 例

那覇市立病院 循環器内科¹⁾, 同外科²⁾

又吉修子¹⁾, 間仁田守¹⁾, 比嘉南夫¹⁾, 旭朝弘¹⁾, 眞志取多美¹⁾, 田端一彦¹⁾

知花朝史²⁾, 定金雅之²⁾, 知念順樹²⁾

要 旨

症例は高血圧症と詳細不明の不整脈の既往がある 85 歳女性。心窩部痛、嘔吐、下痢が出現し、持続するため当院急病センターを受診した。急病センターで経過中に呼吸困難が出現。酸素化の急激な悪化を認めたため挿管、人工呼吸管理となった。胸部レントゲンで心不全の所見があり、心エコーで前壁・中隔の中部～心尖部で壁運動低下を認めたため冠動脈造影を施行した。有意な狭窄は認めず、たこつぼ心筋症と診断した。ICU 入室後、心房細動となりヘパリン投与を行った。心不全は速やかに改善し、第 3 病日に抜管した。その数時間後から腹痛が出現。入院時に施行した腹部 CT を見直したところ、上腸間膜動脈血栓症が判明した。緊急で右半結腸切除術＋小腸切除術を施行し、術後は抗凝固療法を行い退院となった。たこつぼ心筋症は感情的・肉体的ストレスが誘因となって引き起こされることが知られており、引き金となった肉体的ストレスの原因を見逃さないことが重要である。

Key words: たこつぼ心筋症, ストレス, 上腸間膜動脈塞栓症, 心房細動

急性心筋梗塞後良好な経過をたどるも心破裂にて突然死した 1 例

那覇市立病院 循環器内科

旭 朝弘, 伊禮 唯, 比嘉南夫, 真志取多美, 間仁田守, 田端一彦

要 旨

症例は 86 歳, 女性. 高血圧, 高尿酸血症にて通院中であった. 来院日の午前 8 時 30 分頃, 朝食後に胸部圧迫感が出現. 改善ないため同日 12 時過ぎに当院救急を受診した. 心電図にて V1~6 にて ST 上昇を認め, 急性前壁心筋梗塞の診断で緊急心臓カテーテル検査を施行. 冠動脈造影にて左前下行枝(LAD)#6 99%, #7 100% の閉塞を認めた. 有意な側副血行路は認めなかった. 同部に対してそれぞれステントを留置し TIMI Grade3 にて終了した. 心不全や不整脈なく経過し, 一般病棟で心臓リハビリテーションも開始となった.

第 7 病日のシャワー浴中に突然転倒し心肺停止となった. 直ちに心肺蘇生が開始されたが回復することなく死亡した. 病理解剖にて心嚢内に血餅を認め, 左室前壁に心筋破裂所見を認めた.

Direct percutaneous coronary intervention (PCI) の時代になり心破裂による死亡率は減少してきた. しかし従来より初回の前壁梗塞, 高齢女性, 側副血行路なし, 高血圧などが心破裂の危険因子とされており, 良好な再灌流, 経過をたどってもこれらの危険因子をもつ症例は, 注意する必要があると思われた.

Key words: 急性心筋梗塞, PCI, 心破裂, 高齢女性

胸腹水より糞線虫を検出した播種性糞線虫症の 1 例

那覇市立病院 消化器内科

城間裕子, 宮里賢, 與那嶺圭輔, 西澤万貴, 馬淵仁志, 豊見山良作, 仲地紀哉, 島尻博人

要 旨

症例は抗 HTLV-1 抗体陽性の 81 歳, 女性. 入院 2 週間前より下痢が出現し近医にて整腸剤を処方されたが改善せず, 当院に紹介受診となり精査加療目的で入院となった.

胸腹部 CT 検査で胸腹水を認めたことから腹水穿刺を施行し, 糞線虫が確認されたためイベルメクチンの内服を行った. また, 同日施行した便検査からも糞線虫が検出された. イベルメクチン内服後 5 日目に胸水の増悪, 呼吸状態の悪化がみられ, 胸水穿刺を施行したところ再度糞線虫が検出されたため, 治療抵抗性糞線虫症と判断し 1 回目の内服から 9 日目よりイベルメクチンを 5 日間連続の内服を行った. 細菌性肺炎の合併も考慮し CTX も開始していたが, 更に CO₂ ナルコーシス, 敗血症性ショックを来したため PAPM/BP に抗菌薬を変更した. 入院 19 日目に人工呼吸器管理となり, 喀痰培養より MRSA が検出され VCM を追加投与した. その後徐々に全身状態は改善し, 入院 24 日目には人工呼吸器を離脱. フォローの糞線虫検査は陰性で, 胸腹水とも減少し経過良好のため入院 69 日目にリハビリ病院へ転院となった. 播種性糞線虫症または治療抵抗性糞線虫症は確立した治療がなく, 様々な報告がある. また, 沖縄県出身者で原因不明の消化器症状を訴えた場合, さらに抗 HTLV-1 抗体陽性の場合は, 本症を鑑別に挙げるべきである.

Key words: 播種性糞線虫症, 治療抵抗性糞線虫症, 抗 HTLV-1 抗体, イベルメクチン

剖検にて粟粒結核と診断し急性呼吸促迫症候群（ARDS）が 疑われた 1 例

那覇市立病院 腎臓内科¹⁾ 同 病理科²⁾
上間貴仁¹⁾, 糸数昌悦¹⁾, 宮良忠¹⁾, 新垣有正²⁾

要 旨

症例は 80 代の男性。発熱にて急病センターを受診され、頻尿や排尿時痛から尿路感染症を疑われ入院となった。抗菌薬投与するも入院後に急速に呼吸状態が悪化し、画像上はスリガラス状陰影を認めた。一時心肺停止となり心拍再開・人工呼吸管理となるも、数時間後に再度心肺停止し亡くなられた。剖検にて種々の臓器から結核菌を検出し、粟粒結核と診断した。今回、非常に急速な経過で発症した粟粒結核の 1 例を経験したので報告する。

Key words: 粟粒結核, 急性呼吸促迫症候群

コナヒョウヒダニ混入お好み焼きにより アナフィラキシーを発症した一女兒例

那覇市立病院 小児科

新垣洋平, 上原朋子, 新垣律子, 井上円佳, 大城登喜子, 島袋美起子, 徳永孝史,
古波蔵都秋, 桃原由二, 平山良道, 渡久地鈴香, 伊波 徹, 屋良朝雄

要 旨

症例は 13 歳女兒。自宅で調理したお好み焼きを摂取し、咳嗽、呼吸困難感が出現した。摂取から 1 時間後に当院急病センターに救急車搬送となり、アナフィラキシーと診断され、酸素投与、アドレナリン筋注などによる治療で症状は改善した。調理に使用されたお好み焼き粉に、顕微鏡下で多数の生存ダニを認めたため、ダニ混入お好み焼き摂取によるアナフィラキシーと診断した。後日、沖縄県環境衛生研究所にダニの同定を依頼し、混入していたダニはコナヒョウヒダニと判明した。お好み焼き粉は、開封後 3 か月以上常温で保存されており、1g 中約 1000 匹のコナヒョウヒダニが確認された。近年、同様の報告が散見されており、原因不明のアナフィラキシーでは、詳細な問診と摂取食品の精査が必要と考えられた。

Key words: お好み焼き, アナフィラキシー, コナヒョウヒダニ

頭蓋内出血によるサイナソイダルパターンを認めた 胎児発育不全の1例

那覇市立病院 産婦人科¹⁾ 小児科²⁾

平川誠¹⁾, 池宮城梢¹⁾, 神谷素子²⁾, 當間敬¹⁾, 屋良朝雄²⁾, 渡嘉敷みどり¹⁾

要旨

胎児心拍モニタリングにおいてサイナソイダルパターンはRh(D)不適合妊娠感作例や母体胎児間輸血、双胎間輸血による胎児貧血を認めた症例で比較的多く認められる。胎児の低酸素状態が疑われ、緊急対応が必要な状態であることが多い。今回、母体の妊娠高血圧腎症に併発した胎児発育不全を認めた胎児に典型的なサイナソイダルパターンが持続して出現し、分娩後に児の頭蓋内出血が判明した1例を報告する。

Key words: 胎児発育不全, サイナソイダルパターン, 頭蓋内出血